

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく 平成 17 年度事業報告書

目次

I. 運営に関する事項.....	2
1. 通常総会の開催.....	2
2. 理事会の開催	2
1) 第 1 回理事会.....	2
2) 第 2 回理事会.....	2
3. 常務会の開催	2
4. その他	3
II. 事業に関する事項.....	4
1. まちづくりに関する調査研究.....	4
1) 地域課題解決に向けた地域共同体への外部者の参加に関する研究	4
2. まちづくりに関する政策等の提案	4
3. まちづくりに関する情報収集と提供.....	4
2) 地域情報誌「み〜きゆるきゆる」発行事業.....	4
3) おきなわ NPO 月間 2006 へ参加団体として参加	5
4) まちなか研究所わくわくホームページ.....	6
4. まちづくりに関する参加型の話し合いの場の企画・運営	6
5) まちわくオープニングイベント.....	6
6) 松川字誌作成支援事業	7
7) 大里村合併意見交換会「各種団体・機関に対する合併報告会（大里村）」	7
8) にぎわい広場オープニングイベント実行委員会／事務局運営	8
9) にぎわい広場（牧志第二公設市場跡地）の管理運営を考える場づくり	8
10) まちなかアカデミー	9
5. まちづくりに関する建造物・印刷物等デザイン・レイアウト支援	10
11) 市民活動団体 WEB 作成支援事業.....	10
12) 市民活動団体印刷・レイアウト支援事業.....	11
6. コミュニティビジネスの開発・支援.....	11
7. まちづくりを担う市民団体等に対する支援.....	11
13) 派遣事業.....	11
14) ファシリテーター派遣事業	12
15) 団体支援.....	14

I. 運営に関する事項

1. 通常総会の開催

平成 17 年 6 月 17 日（金）、なは商人塾にて通常社員総会を開催した。
出席社員 5 名、委任状による出席社員 4 名。

2. 理事会の開催

1) 第 1 回理事会

平成 17 年 5 月 26 日（木）桜坂 Village にて平成 17 年度第 1 回理事会を開催した。
出席社員 5 名、委任状による出席社員 4 名。

2) 第 2 回理事会

平成 18 年 3 月 4 日（土）ティールーム goo にて平成 17 年度第 2 回理事会を開催した。

3. 常務会の開催

まちなか研究所わくわくの運営に関して週 1 回の開催を原則として常務会を開催した。

第 17 回	4 月 4 日（土）	第 38 回	9 月 24 日（土）
第 18 回	4 月 9 日（金）	第 39 回	10 月 10 日（月）
第 19 回	4 月 16 日（日）	第 40 回	10 月 22 日（土）
第 20 回	4 月 23 日（金）	第 41 回	11 月 5 日（土）
第 21 回	4 月 30 日（土）	第 42 回	11 月 12 日（土）
第 22 回	5 月 10 日（木）	第 43 回	11 月 21 日（月）
第 23 回	5 月 21 日（火）	第 44 回	11 月 28 日（土）
第 24 回	5 月 28 日（金）	第 45 回	12 月 5 日（月）
第 25 回	6 月 4 日（木）	第 46 回	12 月 12 日（月）
第 26 回	6 月 18 日（土）	第 47 回	12 月 19 日（月）
第 27 回	6 月 25 日（水）	第 48 回	12 月 24 日（土）
第 28 回	7 月 2 日（土）	第 49 回	1 月 7 日（土）
第 29 回	7 月 16 日（土）	第 50 回	1 月 18 日（水）
第 30 回	7 月 23 日（土）	第 51 回	1 月 23 日（月）
第 31 回	7 月 30 日（土）	第 52 回	2 月 4 日（土）
第 32 回	8 月 6 日（月）	第 53 回	2 月 13 日（月）
第 33 回	8 月 13 日（土）	第 54 回	2 月 20 日（月）
第 34 回	8 月 20 日（土）	第 55 回	2 月 27 日（月）
第 35 回	8 月 27 日（土）	第 56 回	3 月 15 日（水）
第 36 回	9 月 3 日（土）	第 57 回	3 月 25 日（土）
第 37 回	9 月 21 日（水）		

4. その他

- 6 月 14 日 【講義】古我知理事による戦略的予算の立て方について
- 12 月 24 日 常務会合宿

Ⅱ. 事業に関する事項

1. まちづくりに関する調査研究

1) 地域課題解決に向けた地域共同体への外部者の参加に関する研究

□担当スタッフ：佐々倉 玲於

□テーマ：地域課題解決に向けた地域共同体への外部者の参加に関する研究

□研究期間：2005 年 4 月～9 月

□事業費： 自己負担（佐々倉 玲於）

□研究概要： 地域共同体(ローカルコミュニティ)における地域課題解決プロセスへの、外部者(その地域外出身者)の関わり方を捉えるところから、地域課題解決に対する外部者の関わり方・役割・あり方を研究した。

研究方法としては、国頭村の（特活）国頭ツーリズム協会を取り巻く人々、東村のエコツーリズムに関わる人々、那覇市中心商店街の（特活）まちなか研究所わくわくを取り巻く人々、へのヒアリングから分析を行った。

□成 果：

- ・現在取り組んでいる地域（那覇市中心商店街）における、地域課題解決プロセスにおける現在の位置が見えるようになり、今後取り組んでいく方向性や、まちわくとしての関わり方が見えてきた。
- ・スタッフのスキルアップに大きく貢献した。
- ・琉球大学大学院の修士論文と位置づけ執筆したことにより、まちわくの学歴平均があがった。

□課 題：

- ・論文としてのレベルは低く、論文を書くということの基本がおさえられていない。
- ・今後、調査・研究を行っていく上では、論文を書くということの技術レベルを上げる必要がある

2. まちづくりに関する政策等の提案

今年度、本事業は行わなかった。次年度以降は、地域情報誌「み～きゆるきゆる」事業において、まちの未来を考えていく上で、政策として提案することも考えられる。また、「まちづくりに関する参加型の話し合いの場の企画・運営」事業・「まちづくりに関する調査研究」事業において連携して政策等の提案を行うことも十分に考えられる。

3. まちづくりに関する情報収集と提供

2) 地域情報誌「み～きゆるきゆる」発行事業

□担当スタッフ： 宮道喜一

□概 要： 昨年度の到達点及び課題を踏まえ、今年度は募集から制作、地域への

還元までの一連のプログラムを形にすることを旨しながら平成 17 年 6 月から 12 月にかけて那覇市前島を対象エリアとし、第 3 号を作成した。平成 16 年度は、取り組み初年度ということもあり、情報誌を作成するという点に注力したが、今年度は対象エリアの地域とのつながりをいかに構築していくかという点にも力を注いだ。

□第 3 号概要

- ・特集エリア： 前島
- ・発行日： 2005 年 12 月 16 日
- ・印刷部数： 1000 部
- ・価格： 360 円
- ・作成期間： 2005 年 6 月～12 月

□成果と課題：

	成果	課題
み～きゆるきゆるプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す形としてのプログラムの骨組みが見えてきた ・その中での現在の到達点を把握し、次年度以降に力を入れる部分が見えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・各号の人材募集からオリエンテーションまでがプログラムとして確立していない
発行活動	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 号の発行 ・地域情報誌制作のプロセス確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間 2 号の発行を行うことができなかった
地域でのみ～きゆるきゆる活用及びつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・前島アートセンターからの依頼による「前島まちあるき」の実施 ・取材を通じた「前島塩神保存会」「前島アートセンター」「前島三丁目自治会」等の地域組織とのつながり ・上記組織を通してのつながりの広がり（「前島小学校」「とまり会」等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのみ～きゆるきゆるの活用 ・作成過程で集まるまちの情報の計画的な蓄積が行われていない
販売活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄教販」での常時販売（昨年度より継続） ・「とくふく堂」「桜坂劇場」等の新規委託先の開拓 ・つながりのできた地域組織を通しての販売活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・販路の開拓と定期購読者の確保
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局機能の整理確立（在庫管理・委託管理・会計管理等） ・事務局体制の強化（1 人から 2 人体制へ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局／コアスタッフ／ボランティアの流動的かつ安定的な体制づくり ・ミッションの明確化 ・那覇のまちにおいてどのような情報誌であるべきなのか ・誰に届けたいのか
活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログの開設 ・HP の更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちわく HP とブログの位置づけの明確化 ・情報更新

3) おきなわ NPO 月間 2006 へ参加団体として参加

□担当スタッフ： 佐々倉玲於

□概要： おきなわ NPO 月間 2006 へ参加団体として参加し、1 月、2 月に開催する講座を PR するとともに、団体の存在をアピールした。（おきなわ NPO 月間の

パンフレットに、講座の概要・団体概要が掲載された)

□成 果：

- ・おきなわ NPO 月間参加団体や、おきなわ NPO 月間ボランティアスタッフからの参加者を得られた

□課 題：

- ・まちわくメンバーが支援機関スタッフでもあるため、積極的な広報をしていきにくい

4) まちなか研究所わくわくホームページ

□担当スタッフ： 山脇佳子

□内 容：団体の活動を公開するツールとしてホームページを活用する

□成 果：事業ごとの動きが分かりやすいように、事業報告をブログ形式に変更

□課 題：各自事業の内容が、随時更新されるように工夫をする必要有り。

4. まちづくりに関する参加型の話し合いの場の企画・運営

5) まちわくオープニングイベント

□担当スタッフ： 小阪亘

□日 時： 2005 年 4 月 2 日（土）AM10:00～12:00

□場 所： 那覇ぶんかテンプス館 3 階会議室

□対 象： まちづくり、NPO に関心のある方

□事業費： 自主事業

赤字については、那覇市 NPO 活動支援センターと折半

□参加費： ￥1,000-

□参加人数： 30 名（内会員 6 名）

□内 容： 沖縄における「地域の力」とは？「にぎわい広場」での取り組みを事例として参加者と共に考えた。また、「地域の力」を考えて行くにあたり、先進事例のミニ講座と東京からのゲストスピーカと共に多様な切り口で深めた。

□講 師： 林泰義氏（玉川まちづくりハウス）

伊藤雅春氏（大久手計画工房）

八甫谷邦明氏（季刊まちづくり編集長）

佐藤亮子（アール・スクエア）

□成 果： まちなか研究所わくわくと、那覇市 NPO 活動支援センターのオープニングイベントとして共同で実施することができた。また、多様なゲストスピーカと参加者により、現在取り組んでいる「にぎわい広場」の運営についての将来のビジョンについて考えることができた。

□課 題： 今回のシンポジウムで話された内容を単発的なものにせず、実際のまちづくりの現場にどの様に活かしてかを検討していく必要がある。

6) 松川字誌作成支援事業

- 派遣スタッフ： 宮道喜一・山脇佳子
- 派遣内容： 字誌作成に関わる写真等の画像記録
- 主 催： 松川向上会
- 派遣料： ￥100,000-
- 日 時： 平成 17 年 4 月～12 月
- 成 果： 地域情報誌「み～きゆるきゆる」を見ての依頼であった。那覇のまちの中で地域を見直す字誌の作成に関わることができたことは一つの成果といえる。
- 課 題： 地域の人間の様々な人間関係に配慮した関わり方が求められるが、こちらの提案内容が適当であったとはいえなかった。字展の提案などを行ったが、地域組織の人間関係、字誌自体の取り組みの進捗状況などを十分に把握してから提案すべきであった。

7) 大里村合併意見交換会「各種団体・機関に対する合併報告会（大里村）」

- 担当スタッフ： 宮道喜一
- 委託元： 大里村（現南城市）
- 受託金額： ￥55,450-
- 担当スタッフ： 宮道・小阪・佐々倉
- 日 時： 2005 年 8 月 29 日（月）19:30～21:30
- 場 所： 大里村農村環境改善センター（沖縄県島尻郡大里村字仲間 1124-1 番地）
- 主 催： 大里村
- 参加者： 約 65 名
- 経 緯： 大里村が 2006 年 1 月から南城市に合併するに際し、合併した後の暮らしについて考え、議論していける土壌をつくる場をつくりたい、という趣旨の依頼を大里村議会議員から頂き、意見交換会を実施した。
- 内 容： 大里村からの説明を得た後、参加者（住民）に合併をすることによって「不安に感じていること」「期待していること」を色違いの付箋紙に記入してもらい、グルーピングを行った。
- 成 果：
 - ・大里村民として合併に向けて不安に感じていることと期待していることは表裏一体であることや、その他三町村に関する情報不足が浮き彫りになった。
 - ・合併後の南城市としてのビジョンが見えず、情報が少ないなか、未知なる将来への期待と不安が現れた意見交換となった。
 - ・意見分類から「行政サービス」「観光」「農業」「地域福祉」「公共施設」「道路・都市計画」等のグループに分けることができ、この情報を基に大里村によって、タウンウォッチングが実施された。
- 課 題：

- ・関わり方としてこの報告会のみに関わりとなり、その後の動きがどうなったかなども把握し切れていない。
- ・単発事業の限界もあるが、各地域への関わり方を明確にしてから事業を進める必要がある。
- ・今回、ワークショップを進める上でのサポートにまちわく以外の人材へお願いしたが、ファシリテーターサポーターをまちわく以外に育成することも今後必要となるかもしれない。

8) にぎわい広場オープニングイベント実行委員会／事務局運営

□担当スタッフ： 佐々倉 玲於・小阪 亘

□概 要： 牧志第二公設市場跡地の整備事業に関わっていたことから、リニューアルオープンにあたって急遽オープニングイベントが開催されることになった。このイベントは、有志が集まって実行委員会をつくり、那覇市と共に行うこととなった。そこで、その実行委員会の事務局をまちわくが担うことになった。

□委託元：那覇市

□事業費：50 万円

□日 時： 2005 年 5 月 14 日(土)、15 日(日)

□場 所： にぎわい広場（旧・牧志第二公設市場跡地）

□参加人数：

□まちわくの果たした役割：

- ・まちの事務局としての役割を始めて担ったこととなる

□成 果：

- ・牧志第二公設市場跡地の整備事業をきっかけとして集まった人たちの苦労が報われたようなイベントとなった
- ・にぎわい広場の運営を考える市民の会ができるきっかけとなった

□課 題：

- ・にぎわい広場でイベントを行う時に、PA の音量などと周辺住民への影響を考える必要がある。
- ・にぎわい広場事業の一つの節目となったが、今後広場の運営を考えていくための、枠組みをつくる必要がある。

9) にぎわい広場（牧志第二公設市場跡地）の管理運営を考える場づくり

□担当スタッフ：佐々倉 玲於

□目 的：

- ・にぎわい広場の管理運営を考えていくことをきっかけに、人とまち、人と人、組織と組織のつながり・関わりを取り戻す。
- ・那覇市中心商店街商店主、周辺地域に暮らす人々が、まちの将来について、主体

的に考え、まちの課題を共有し、課題解決に向けて取り組んでいくきっかけをつくる

- ・那覇市中心商店街商店主、周辺地域に暮らす人々が、主体的に、かつ、持続可能な形で、課題解決に取り組んでいける仕組みをつくっていくことを支援する

□概要：

- ・毎月定期的に集まり（ワークショップ）をもち、話し合いの場をファシリテートする。
- ・「まちなか現在」という情報誌を発行する

□事業期間：2005 年 5 月から

□助成金：フィリップモリスジャパン 市民活動～住民活動助成（2005 年立上げ助成）98 万円

⇒孫の代まで 100 年計画 なは・まちのこしプロジェクト

⇒助成期間：2005 年 10 月～2006 年 6 月まで

□補助金：那覇市商工業振興奨励補助金イベント等支援等事業 30 万円

⇒『にぎわい広場活用に向けた地域運営を考える参加型話し合いの場「まちつくるワークショップ」』企画運営事業

⇒補助期間：2005 年 8 月～2006 年 3 月まで

□まちわくの果たした役割：

- ・まちの、ファシリテーターとして、事務局として、シンクタンクとして、役割を果たしている
- ・まちの人たちが、主体的に動いていけるきっかけを与えている

□成果：

- ・継続的な話し合いによって、地域の課題が共有され、実際に動いていく段階までにつながっている
- ・既存の組織を横断して商店街関係者のネットワーク組織ができた

□課題：

- ・成果としてできたネットワークを周辺地域住民へ広げつつ、そのつながりが持続可能な形で運営できるような仕組みをつくっていく必要がある
- ・まちの動きの中で、まちわくとして、どう関わっていくかを決めて動いていく必要がある
- ・あと最低 3 年は、まちに関わる必要があると感じているが、継続的にかかわり続けられるように、資金を調達する必要がある

10) まちなかアカデミー

□担当スタッフ： 宮道喜一

□目的： 顧問である小野尋子先生が久茂地小学校にて行った子どもの危険箇所調査結果を地域へ還元すること。

□内 容： 防犯パトロールを行っている方々や PTA の方々に参加を呼びかけ、久茂地地域の危険箇所（①子どもが危険にあっている場所、②何も起きていなくても、危険な要素を持っている場所）を確認しながらのまちあるきを実施。

□日 時： 2005 年 7 月 30 日（土）16:00～17:00

□事業費： ￥0-

□集合場所： 久茂地公民館

□ゲスト： 樋村先生（東京大学）

□進行&講師： 琉球大学小野尋子先生

□協 力： 久茂地地域連絡会、(特活)まちなか研究所わくわく

□プログラム：

12:00- お昼（樋村先生と合流）

14:00- まちあるき（調査的なまちあるき）

16:00-17:00 久茂地の人にとって大切なポイントを解説&学習まち歩き

□まちわくの果たした役割： 地域団体との調整・参加呼びかけ

□成 果：

- ・防犯パトロールを行っている方々が想定してないところで事故が起きていたというのを場所を実際に確認しながら伝えることができたこと。さらに、パトロールコースに調査結果が反映され、修正された。
- ・思い込みや感覚で地域活動をするのではなく、調査結果を元にした効果的な活動を展開することの重要性を確認できた。

□課 題： 地域住民・地域組織と大学の専門家のコーディネートを行ったわけだが、両者の目的の共有や最適な場のコーディネート（祭りのイベントが適当であったか）という点に関して課題を残した。また、その後の地域の動きの追跡ができていない。

5. まちづくりに関する建築物・印刷物等デザイン・レイアウト支援

11) 市民活動団体 WEB 作成支援事業

① 子育てネットワーク風のうた HP

□担当スタッフ： 山脇佳子

□依頼主：(特活)風のうた子育て支援ネットワーク

□事業概要：昨年度に引き続き、活動などを紹介するホームページの管理運営
<http://www.kazenouta.net>

□成 果： 団体の想いを発信し続けるツールとして確立。

□課 題：団体としての課題（会員サービスなど）を盛り込める内容をより提供できるようにすること。

② ONE（沖縄自然体験ネットワーク）

- 担当スタッフ： 山脇佳子
- 依頼主：NPO ONE ネットワーク
- 事業概要：団体の活動を紹介するホームページの作成
<http://www.cosmos.ne.jp/~onenet/>
- 成果：団体の活動を多くの方に知ってもらえるツールとして使えるよう手助けができた。
- 課題：今後の更新作業がスムーズにできるように、操作などもサポートできるようにしていく必要がある。

12) 市民活動団体印刷・レイアウト支援事業

- ① 沖縄県ボランティア・市民活動支援センター情報誌「Chu」表紙作成
 - 担当スタッフ： 山脇佳子
 - 依頼主：沖縄県ボランティア・市民活動支援センター
 - 事業概要：沖縄県ボランティア・市民活動支援センター情報誌「Chu」の表紙を作成
 - 成果：市民団体にも、一般の方にも親しみやすく、手にとりやすいイメージ作りを手助けできた。
 - 課題：年間を通して、依頼主とのやり取りで、もうすこし詳細まで話し合い、月ごとのテーマ設定などができるとよかった。

6. コミュニティビジネスの開発・支援

今年度、本事業は行わなかった。次年度以降は、にぎわい広場事業を中心に展開していく予定。

7. まちづくりを担う市民団体等に対する支援

13) 派遣事業

- ① 那覇市中心市街地活性化シンポジウム
 - 派遣スタッフ： 小阪亘
 - テーマ： 国際通りのトランジットモールを活用した中心市街地の活性化
 - 主催： 内閣府沖縄総合事務局経済産業部中小企業課
 - 講師料： ￥13,000-
 - 派遣内容： パネリスト
 - 日時： 平成 17 年 11 月 18 日（金）17:00～20:00
 - 会場： 那覇市ぶんかテンプス館 4 階ホール

- ② 文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業
アート NPO フォーラム

- 派遣スタッフ： 宮道喜一
- テーマ： 『アートのカ ～地域への新たな視点～』
- 主 催： 那覇市「文化芸術による創造のまち」実行委員会
- 企 画： ワナキオ実行委員会
- 講師料： ￥10,000-
- 派遣内容： パネリスト
- 日 時： 平成 17 年 10 月 30 日（日）14:00-
- 会 場： 新天地ビル（那覇市牧志 3 丁目）
サンライズ通り新天地市場入り口

14) ファシリテーター派遣事業

- 派遣スタッフ：佐々倉 玲於
- 概 要：

まちづくりを行っていくうえで、組織内や地域住民間での合意形成、企画・計画を立てていくということは多く出てくる。そうした場面において、外部からの第三者的立場でその場をファシリテートする人材を派遣する。
- 成 果：
 - ・ 4 回の講座において、参加者にアンケートを実施したところ、満足度の平均は、91.8 点/100 点であった。
 - ・ 6 本の企画のファシリテートを行うことで、担当者個人の自信をつけることができた
 - ・ 講座的なものが多かったが、講座を組み立て、やっていくということができるようになった
 - ・ 2 時間で講座を受けていたが、参加型で、ワークなどを入れて、行っていくためには、3 時間以上は必要であることがわかったなど、今後講座を行っていく上で必要な視点を得られた
- 課 題：
 - ・ 1 つの講座のプログラムを整えるために、調整・プログラムづくりなど含め約 1 日の準備がかかってしまう。このため講師料の設定をもう少し高くしないと、割に合わない仕事となってしまう
 - ・ 単発の講座が多いが、連続性のある講座を組み立てるトレーニングも必要である・講座が多いが、今後の展開として、会議の出張ファシリテーターとしての実績を積む必要がある
- 以下、派遣内容
 - タイトル： 中社連ボランティア担当連絡会 勉強会
 - テーマ： ワークショップの基礎

- 講師料：1 万円
- 日 時： 2005 年 5 月 20 日(金) 14:00～16:00
- 場 所： 北谷町社協
- 参加人数：11 名
- 主 催：中部地区社会福祉協議会ボランティア担当連絡会
- 参加者満足度：93.1 点/100 点

- タイトル： 学童指導員向けワークショップ研修
- テーマ： 父母からの声を引き出す参加型会議の進め方トレーニング
- 講師料： 1 万円
- 日 時： 2005 年 6 月 7 日(火) 10:00～12:00
- 場 所： わんぱく家
- 参加人数：13 名
- 主 催：南部学童連絡会
- 参加者満足度：92.1 点/100 点

- タイトル：財団法人おきなわ女性財団職員スキルアップ勉強会
- テーマ：講座をうまくすすめるファシリテーターを目指せ！（基礎編）
- 講師料： 1 万円
- 日 時： 2005 年 6 月 30 日(火) 18:00～21:00
- 場 所： ているる
- 参加人数： 9 名
- 主 催：財団法人おきなわ女性財団
- 参加者満足度：89.3 点/100 点

- タイトル： 中社連福祉推進部会 研修会
- テーマ：会議の進め方について
- 講師料： 1 万円
- 日 時： 2005 年 7 月 14 日(木) 14:00～17:00
- 場 所： 西原町社協
- 参加人数： 6 名
- 主 催：中社連福祉推進部会
- 参加者満足度：92.5 点/100 点

- タイトル： 読谷村ボランティア連絡会 研修会
- テーマ： みんなでボランティア祭りを創り上げるために
- 講師料： 1 万円

- 日 時： 2005 年 7 月 25 日(月) 14:00～16:00
- 場 所： 読谷村社協
- 内 容： ボランティア連絡会に加盟するボランティアサークル・団体が、第 3 回
目のボランティア祭りを開催するというので、どういう目的で祭りをするのか、
ということを確認し合うということを行いました。
- 参加人数： 約 100 名
- 主 催： 読谷村ボランティア連絡会

- タイトル： もしかしてあなたも私も裁判員
- テーマ： 裁判員制度について学ぶ
- 講師料： 1 万円
- 日 時： 2006 年 2 月 14 日(火)
- 場 所： 繁多川公民館
- 内 容： 裁判員制度を学ぶ講座を、参加型で進めていくことを行った。難しい話
を聴きやすくするというを目的に、プログラムを組み、ファシリテートを行っ
た。
- 参加人数： 20 名
- 主 催： NPO 法人なはまちづくりネット

15) 団体支援

- ① 久茂地小学校の存続を望む会支援
 - 派遣スタッフ： 小阪亘
 - 派遣内容： パブリックコメントを出すに当たっての会議のファシリテーター
とまとめ方の相談
 - 主 催： 久茂地小の存続を望む会
 - 派遣料： ￥10,000-
 - 日 時： 平成 17 年 11 月 5 日 (土) コアスタッフ WS
11 日 (金) 座談会ファシリテーター
17 日 (木) パブリックコメントのまとめ方相談
 - 成 果：
 - ・地域情報誌みーきゆるきゆる「久茂地号」の縁により地域の団体と知り合い、
活動のお手伝いをすることができた。
 - ・当初目的であったパブリックコメントの提出に向けて、考える機会やまとめ
方など会議の場でのファシリテーション以外のところでも活動のアシスト
ができた。
 - 課 題：
 - ・依頼団体の活動にどこまで踏み込んでいくか？ファシリテートから一歩踏み

込での共同へ。依頼内容にもよるが考える必要がある。

② 沖縄県内のファシリテーター増殖に向けた人材育成プロジェクト

□担 当： 佐々倉玲於

□概 要： ファシリテーターを養成するための講座を毎月 2 回行う。

□成 果： 毎月 2 回の講座は開催しなかったが、助成金がとれたことによって 1 2 月より月 1 回（全 3 回）の講座を開催した。

□タイトル：沖縄県内のファシリテーター増殖に向けた人材育成プロジェクト

『参加型』に迷うプロのための『ワークショップ』のつくり方 連続講座

□概 要： 『参加型』をつくるということに悩まされている、各分野のプロ（仕事の中でワークショップを行っている人）を対象に、参加型の場をつくるプロとして、スキルアップできるように、現場で活かしていくことができるように、開催している講座。

□助成先： 社団法人 沖縄建設弘済会

【第 1 回】

□テーマ：ワークショップの心 ～ワークショップ・ファシリテーションの本質～

□日時：2005 年 12 月 10 日(土),11 日(日)10 時～翌 16 時(1 泊 2 日の合宿研修)

□会場：糸満青年の家

□ファシリテーター：中野民夫氏

□講師料：14 万円(2 日間)

□参加費：15,000 円(食事代(4 食)・宿泊代込み)

□参加者：11 名

□参加者満足度：94.5 点/100 点

【第 2 回】

□テーマ：ワークショップの技 ～参加の場をうまく進める→聴く・話す・書く・決める…という方法～

□日時：2006 年 1 月 21 日(土),22 日(日)10 時～翌 16 時

□会場：糸満青年の家

□ファシリテーター：青木将幸氏・志賀壮史氏

□講師料：10 万円(2 日間)×2 人=20 万円

□参加費：15,000 円(食事代(4 食)・宿泊代込み)

□参加者：15 名

□参加者満足度：93.5 点/100 点

【第 3 回】

□テーマ：ワークショップの実践 ～なぜ参加型なのか？現場におけるファシリテーターのあり方とは～

□日時：2006 年 2 月 11 日(土)10 時～19 時,12 日(日)10 時～16 時

□会場：沖縄県立武道館 研修室

□ファシリテーター：池住義憲氏

□講師料：14 万円(2 日間)

□参加費：10,000 円

□参加者：11 名

□参加者満足度：119.8 点/100 点

□成 果：

- ・最高の講師と最高の参加者を向かえ、満足度の高い講座にすることができた
- ・まちなかスタッフのスキルアップにもつながった
- ・研修ログを学ぶことができた

□課 題：

- ・研修ログを行うための時間をしっかりと、準備することが大切。これによって、満足度も変わってくる
- ・講師との打ち合わせの時点で、こちらの想いをしっかり伝えていくことが大切・参加費と参加者のバランスが難しいが、検討していく必要がある
- ・年度末の開催となってしまったため、参加者数にも影響した気がする。ターゲットがしやすい時期に設定することが大切
- ・ワークショップ・ファシリテーションの本質を伝えていくために、プロのため、トレーナーズトレーニング的な研修が定期的に必要である
- ・プロのためだけでなく、初級講座も必要で、これをやっていくことにより、ファシリテーター的な視点を持った人間を増やしていくことができる